

企業名： 大垣共立銀行

レポート名： 大垣共立銀行 統合報告書2023

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

同統合報告書内の p4、OKB 大垣共立銀行頭取 境 敏幸氏の TOP MESSAGE の欄より、「地域が抱える課題に対して、「地域に愛され、親しまれ、信頼される OKB」を念頭に、「お客様の課題解決策をお届けする「総合サービス業」、p20 より「お客様の共感と感動を呼び、地域に必要とされる企業グループ」を目指していることが分かった。この「総合サービス業」についても同統合報告書 p14 の「グループ一体での事業展開」の欄に「銀行のほか、リース、証券、システム開発、シンクタンク、クレジットカードなど様々な事業を運営する 12 社で構成されている」ことが示されており、さらにこれに付随して例示も行っていたため、容易に理解できた。以上より、この質問に対する回答は「理解できる。」だ。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

同統合報告書 p14 「OKB グループの強み」より「地域からの信頼/強固なネットワーク」、「グループ一体での事業展開」、「先進性へ挑戦する組織風土」、「多様な人材」がこの会社の押し出している競争優位性であることが分かった。それぞれの欄で鮮明かつ納得のいく例示が行われており、特に「地域からの信頼/強固なネットワーク」の欄での「Forbes 「WORLD'S BEST BANKS 2022 (世界の銀行ランキング)」地域金融機関 1 位」という具体的な功績もこの会社がなくてはならない存在であるということを強く認識することができる。以上より、この質問に対する回答も「理解できる。」だ。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

同統合報告書から、OKB グループは「岐阜県や愛知県を中心に「地域からの信頼/強固なネットワーク」を競争優位性の一つとして保持していることが分かる。そしてこの優位性は他の会社が同地域で模倣することは困難であることが容易に想像できるため、持続性はこの分野に関しては存在すると理解できる。他の「グループ一体での事業展開」についても、岐阜県や愛知県を中心とした「地域に根差した事業展開」を、また OKB グループ内部に存在する「先進性へ挑戦する組織風土」を他社が模倣することは困難であることも想像できる。「多様な人材」に関しては OKB グループの研修体制を他社も導入することは比較的容易であると考えられるため、持続性があるかどうかの判定は難しい。しかし、同社が提案する競争優位性の大半は持続性があると理解できる内容である。以上より、この質問に対する回答は「理解できる。」だ。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

同統合報告書 P38 掲載の「人的資本の最大化への取り組み」より、研修などを含めた人材育成の具体的な方針が示されていることが理解できる。故にこの質問に対する回答は「思う。」である。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

私が本統合報告書を拝読させていただき、まず感じたのがレイアウトの見やすさ、とっつきやすさである。各項目に文章が多すぎないように図を添付するという工夫がなされており、幅広い人が OKB グループについて抵抗なく知ることが出来るという点が私の感じた良い点の一つ目である。また、内容も私たち学生などの OKB グループに興味を持っている会社外部の存在にとって概ね必要十分な量であると感じられる。私は本統合報告書がニーズを満たす十分なものであると考えている。